

## 第5回大河原地域における高校のあり方検討会議 会議録

日 時 平成28年9月16日（金） 午後2時から午後4時まで  
場 所 宮城県大河原合同庁舎 2階 201会議室  
出席者 別紙出席者名簿のとおり

### 1 開会

#### 【司 会】

本日はご多忙の中、「第5回大河原地域における高校のあり方検討会議」にご出席賜りましてありがとうございます。

会議に先立ちまして、宮城県教育委員会教育長の高橋仁よりご挨拶を申し上げます。

### 2 あいさつ（高橋教育長）

本日は、お忙しい中、「第5回大河原地域における高校のあり方検討会議」に御出席いただきまして、ありがとうございます。

私もずっと欠席ということで申し訳なかった訳ではありますが、今日は最終回ということでもありまして、ぜひ出席をさせていただいて、御礼を申し上げながら、会を進めさせていただきたいということで、参上したところでございます。

今年の3月に第1回の会議を開催いたしました。本日で5回目ということになりました。毎回、会議で皆さまから、熱心にご議論いただき、様々な意見を頂戴してまいりました。改めて貴重なご意見を頂戴したことを心から感謝を申し上げます。

皆さま御承知のとおり、「地域における高校のあり方検討会議」、この会議でございますが、県教育委員会として、初めて設置した会議でございます。今後の少子化を見据えながら、南部地区において伝統と実績のある柴田農林高校と大河原商業高校のこの2つの学校を再編し、新たな職業教育の拠点校をつくるということで、地域の将来を担う子どもたちの育成について地域の皆さまから様々なご意見を頂戴し、一緒に高校づくりを検討していきたいということで、進めてきた会議でございます。

これまでの4回の会議においては、農業教育・商業教育の今後の方向性、そして新しい学科、魅力ある学校づくりに向けた地域の皆さまとの連携のあり方等々、様々なご意見を頂戴したところでございます。

本日最終回ということでございますが、皆さまから頂戴した様々なご意見を踏まえて、取りまとめということで、報告書の案を作成したところでございます。その作成した報告書の案について、本日の会議において、また様々なご意見を頂戴できればと考えております。

今回の報告書の案では、地域のニーズを踏まえた、魅力ある新たな「職業教育拠点校」の設置に向けたその第一歩としたいと考えております。限られた時間ではありますが、皆さまから忌憚のないご意見を頂戴しますようお願いを申し上げます、あいさつとさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

#### 【司 会】

続きまして、本日のご出席でございますが、名簿をご覧いただきたいと思いますが、本日は、大河原町商工会会長の斉藤清一様に代わりまして、副会長の本木拓也様に代理で御出席いただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【司 会】

それでは、会議の方に入りたいと思います。

検討会議の開催要領では、本会議の座長につきましては、鈴木教育監兼教育次長が務めるということになっておりますが、本日所用により欠席しておりますので、本日の進行は高橋教育長にお願いしたいと思っております。

それでは、進行へのご協力よろしくお願いいたします。

### 3 内容

#### 【座 長】（高橋教育長）

それでは、鈴木教育監のピンチヒッターということで、役不足ではありますが、進行させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、次第の「(1) 第4回会議における主な意見」そして「(2) 両校の再編統合に係る報告書(案)」について、資料1及び資料2に基づいて事務局から続けて説明申し上げます。

事務局、よろしくお願いいたします。

#### 【事務局】（西城教育企画室教育改革班長）

事務局の西城と申します。よろしくお願いいたします。

まず資料1をお手元にご準備ください。こちら「第4回大河原地域における高校のあり方検討会議における主な意見について」ということで、前回7月19日に開催されましたこの会議、テーマが「魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について」、それから「両校の再編統合に係る報告書(中間案)について」ということで実施いたしましたけれども、こちらの皆さまからいただいたご意見を取りまとめたものになります。キーワード的な文言はゴシックで表記しております。

1 ページ目、「魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について」ですが、学校と地域との連携に関しましていただいたご意見を分類しますと、大きく分けて3つに分けられました。まず、人材育成に係るもの、それから情報発信等に係るもの、最後に関係機関等との連携に係るものということで、資料はこの順番にまとめております。まず、人材育成に係るものということで、上から見ていただきたいのですが、1つ目のポツ、学校が所在する町の振興発展につながるよう、将来地元に残って活躍する人材、町の職員となって行政として町づくりを考えていくことができるような人材の育成を考えられる人材の育成についてのご意見、それから2つ目のポツ、地域の価値を高めて、地域の信頼を高めること、そのような志を持った生徒がたくさん出てくるのが極めて大事だと思うというご意見。それから、3番目ですが地域に対する愛情や志を持ってもらうために、もっと幅広い基礎的な、教養的な学びをしっかりとしていく必要があるというご意見もいただきました。それから、ひとつ飛ばした下になりますが、高校生には、地域にいかに関与できるか、地域貢献の立場でいろいろな学習に取り組んでほしい。その下、故郷の魅力、故郷の宝に興味関心を持つような子どもを育てることが大事であるというご意見をいただいたところです。

次に情報発信に関することといったところで、資料中程のポツになりますが、インターネットを通じた発信能力を高めるとともに、地域が一体となって情報発信の取組を進めていくことが大切であるというご意見、それからその下ですが、若い世代に向かって情報発信していくことが今後の方向性として重要である、それからその下、高齢者等を含め、地域の中で暮らす人々を学校の中にどのように取り込むかを考えていく必要があるというようなこと。それからその次になりますが、空き店舗を利用した常設の商店のような地域の方々に学校がやっていることが見えるような場所をつくっていくとよいといったようなご意見をいただきました。

最後、関係機関との連携ということで、その下のポツになりますが、地域の企業との連携だけではなく、もっと範囲を広げた団体（企業、大学、専門学校）等との連携を考えていく必要がある。それからその下、ゴシックのところになりますが、企業との連携を通して地域も活性化し、企業にも利益がでるような仕組みができればよい。それから、高校生が、地元の中学校もしくは小学校に出向き、専門分野の講義をしてもらうことも連携につながると思うというご意見をいただいたところです。

次に2ページ目をご覧ください。こちらにつきましては、「両校の再編統合に係る報告書（中間案）について」という中で、いただいたご意見になります。いろいろなご意見をいただいたところですが、こちらについては大きく分けると、学校に関するもの、それから、学科に関するもの、最後は学習内容に関するものという分類で並べてあります。

まず学校に関するものですが、2ページ目の上になりますが、1つ目のポツのゴシックのところですが、高校生の斬新なアイデアを具現化した新たな産業を絶えず見据えた職業教育の拠点校であればよいと思うということ、それから、新しいデザインという学科と、商業と農業が一緒になることで、新たな学校のスタイルが確立できると思うというご意見、

それからその下、6次産業化あるいは地域ブランドの確立という中で、地域産業等との連携についての学習ができるということであれば、中学生から見て魅力ある高校になると思うというご意見をいただきました。また、農業に関しましてはその次ですが、これからの農業をどのようにしていけば儲かるか、生計を立てられるのかといったところも含めて、しっかり勉強できる学校をつくっていければよいと思うというご意見をいただきました。それから2つ下になりますが、十分に勉強できるように施設をきちんと整備すること、また、地元の大河原町にも御協力いただきながら、町のためになる高校としてやっていければよいと思うというご意見、それから少し飛びますけれども、宮城大学等と連携できるような仕組み、また、学生と連携して地域のことを考えていくような仕組みができれば地域ブランドの確立に近づくと、そのような学校になればよいというご意見をいただいたところです。

次に学科の関係というところになりますが、資料中程より下の方、ゴシックのところになりますが、どのような学科が今後の社会においてニーズがあるのかを踏まえながら学科を決定していくことが必要だと思う。それからその下、子どもたちのニーズを少しでも反映できればよいと思うというところで、ニーズを踏まえてというご意見。それから、2つ下になりますが、デザイン系という幅広いが、クリエイティブデザインといえ中学生にも分かりやすいのではないかというご意見。デザイン関係で在宅で就業することにより、子育てと仕事を両立できる、そういった考え方もこれからは大事なのではないか。それから、一番下のポツになりますが、地域い自ら取材に行っているいろいろなものを仕入れてくる、あるいは農業や商業の分野の取組をデザインと一緒に考えるといったことで、学校が一体となって地域のブランドを確立するということについては、現段階ではデザイン系の学科がよく合うように思うという意見を頂戴したところです。

3ページ上になりますが、こちらでも学科の関係ということで、農作物は味が勝負であり、そういったものも含めて地域全体の価値を高めるような学科にしてほしいというご期待をいただいたところです。

最後に学習内容ということになりますが、3ページの3つ目のポツ、ITやマーケティングのノウハウを駆使して店舗を起すなど、起業家精神といった観点から勉強することがよいと思う。その下、それぞれの専門分野の基礎基本をしっかり教えること、その上で、6次産業に向けた教育を行うことが大事である。それから、情報系の学びを是非取り入れてほしい。その下、産業振興に関わる部門の人材を育成することを念頭においたカリキュラムを組んでほしい。それから、下から2番目になりますが、売れるものをつくってほしいという勉強ができるような学校ということでご意見を頂戴しました。資料1については以上になります。

次に資料2をお手元にご準備ください。こちらは報告書の案ということになりますが、前回の会議におきましては、報告書の核となる部分、この会議でご意見交換を行ってまいりました「今後の農業教育・商業教育について」、それから「新しい学校に期待すること」、

「新しい学科について」、こちらの3つの項目について中間案ということでお示したところでは、最終案ということで前回のものを含めまして、報告書の全体像をお示しているかたちになります。まず、表紙をめくっていただきまして、目次がありますが、大きく、「はじめに」、それから、1～4の章立てでまとめを行っております。基本的に昨年度末3月17日に開催されました第1回目の検討会議からの会議内容も網羅するようなかたちで取りまとめを行っております。目次をご覧くださいと、「はじめに」の次に1として「南部地区の概要」、2として「南部地区の高校教育の状況」、それから3として、「両校の状況」、4として「魅力ある新たな職業拠点校のあり方について」ということで区分しております。4につきましては、前回中間案に該当するところになります。最後に「資料編」ということで、記載の7項目についてデータ等を添付している構成になっております。

では、1ページ目をご覧ください。こちらは「はじめに」ということで、このような内容で掲載させていただいております。内容については追ってご覧いただければと思います。

2ページ目をご覧ください。「南部地区の概要」ということで、前段を簡単に入れさせていただいておりますが、人口と産業について記載しております。人口につきましては、「国勢調査」の結果に基づいて記載をしているところです。それから、産業につきましては、「市町村民経済計算」における総生産額の記載と第1次産業から第3次産業までの3区分を記載しているところです。簡単に見てみますと、第1次産業につきましては、農林畜産業の全てにおいて県内有数の産地であること、それから、農業経営の多角化の先進地であること、課題としては、後継者の育成と経営基盤の強化が挙げられるということ、それから、第2次産業につきましては、製造業が中心であるということ、機械系製造業を中心に県内有数の集積地であること、地元には多様な農林畜産物があり、第1次産業の強みを生かして食品製造業が盛んであることが挙げられます。また、第3次産業につきましては、蔵王等の観光資源に恵まれていることから、観光業に強みがあること、一方、課題として、原発事故に伴う風評被害の払拭、インバウンドの推進等挙げられるところです。

次に3ページ。項目としては、「南部地区における高校教育の状況」というところになります。こちらにつきましては、まず(1)生徒数の推移、それから(2)各高校の学科・充足率、それから(3)全日制高校の再編・学級減実施状況というところで、取りまとめをしております。3ページの生徒数の推移になりますが、こちらはグラフを見ていただきたいのですが、平成27年、平成28年は実数を記載しております。それ以降、平成42年までは推計値ということになっておりますが、こちらの推計値については、説明が抜けておりましたので、グラフの下に説明を入れたいと思いますが、推計方法としましては、学校基本調査をベースとして、社会増減を踏まえて推計したものという数値になります。こちらは記載追加させていただきたいと思います。内容を簡単に見ますと、生徒数の推移の記載になりますが、平成28年3月の卒業生数は1,589人となっておりますけれども、平成42年3月の見込みでは、1,114人ということで、14年間で475人、マイナス30%という状況になっているという記載になります。

その次に(2)各高校の学科・充足率になりますが、こちらについては4ページの表のとおりになりますが、3ページの学科構成の記載になりますが、普通科が5科、総合学科が2科、専門学科として、農業に関する学科が4科、工業に関する学科が5科、商業に関する学科が3科、看護に関する学科が1科、体育に関する学科が1科となっており、多様な学科の設置により、幅広い進路に対応できる状況となっておりますという記載にしております。4ページ(3)全日制高校の再編・学級減実施状況で、こちらは平成13年度以降、子どもの数の減少に伴いまして、学級減等進められてきた訳ですが、平成13年度時点で12校、58学級でありましたけれども、今現在、平成28年度には10校、39学級になっているという状況を記載しております。

5ページ、両校の状況ですが、こちらにつきましては、柴田農林高校、それから大河原商業高校それぞれ2ページずつ使いまして、学校の概要と教育方針と、教育内容、特徴的な取り組み、進路の状況という構成で記載をしております。

5ページの柴田農林高校、学校の概要等記載のとおりですが、簡単に内容をみていきたいと思います。まず、明治41年に創立ということで、長い歴史をもった学校、伝統のある農業高校ということで、現行体制として食農科学科、動物科学科、森林環境科、園芸工学科の4学科になりましたのが、平成18年度からということで現在に至っている状況です。それから教育方針については記載のとおり、教育内容についても学科ごとに記載のとおりということになっております。6ページ、柴田農林高校の特徴的な取り組みのところ、6つほど掲載をしております。くくり募集とミックスホームルーム、基礎学力の定着と学力の向上、町の中心部にある県内に3校しかない農業単独の専門高校、県内唯一の林業・造園を学べ、仙南地区唯一の土木が学習できる学科、地域になくてはならない学校を目指してということで、地域に密着した農場生産物販売会を実施していること、同じく地域になくてはならない学校を目指してということで、積極的な地域貢献活動、ボランティア活動を行っているということを掲載しております。⑤の進路状況については3ヵ年分を載せております。記載のとおりですが、簡単に説明をさせていただくと、大学や専門学校への進学については、だいたい3ヵ年をみると23%前後、それから就職につきましては76%前後ということになっております。県内の就職者のうち、仙南地区の就職者については、およそ県内のうちの3分の1を占めるという状況になっております。

次に大河原商業高校、7ページをご覧ください。同じく学校の概要というところで、こちらは大正11年に創立ということで、長い歴史のある学校ということになりますけれども、平成12年度から学科を改編しまして、現在の流通マネジメント科、情報システム科、OA会計科の3科体制に再編している状況になっております。教育方針及び教育内容については記載のとおりです。特徴的な取り組みというところで、大商ブランド(DAISHO BRAND)と掲げまして、部活動、教養、資格取得、規律ある生活というところで、4分野の能力・態度を育成するという目標を掲げて学校全体で取り組んでいるということ、それから部活動の成果、教養を深める取組、資格取得にも力を入れており、最後に特

色ある教育活動として、企業等と連携した商品開発、販売活動について記載をしているところ。⑤の進路の状況になりますが、こちらも記載のとおりではありますが、進学については年によって差はありますが、だいたい34～39%程度、それから就職が59～65%程度、県内就職者のうち仙南地区への就職者については、平成25年が33.3%、平成26年が37.7%、平成27年が41.1%ということで、近年の状況を見ると上昇傾向にあるということが言えると思います。

次に9ページ目、魅力ある新たな職業教育拠点校のあり方についてをご覧いただきたいと思えます。これは前回、中間案としてお示ししましたものとほぼ同じものということになりますが、構成につきましても（1）今後の農業教育・商業教育について、①は農業教育、②は商業教育、10ページの③農業・商業共通ということで、会議の中で皆さまからいただいたご意見を取りまとめたものになります。それから（2）新しい学校に期待することにつきましても、6点会議おいていただきましたご意見を取りまとめているところです。11ページですが、（3）魅力ある学校づくりに向けた地域との連携等について、こちらについては前回の第4回の会議での話し合い、先程の資料1にもありましたけれども、話し合いの内容になります。資料1をさらにまとめたかたちで、掲載をさせていただいております。枠組みの中をご覧いただきたいのですが、まず1つ目として、自身の生まれ育った地域の価値を高め、町づくりを推進しようとする志を持った人材の育成、それから2つ目、地域の魅力に興味関心を持つ子どもの育成、3つ目、地域への貢献、地域との連携及び地域のことに関する学びの推進、4つ目、高校も含め地域が一体となった情報発信の取組、5つ目、地域の方々に学校に呼び込む、6つ目、店舗運営など地域の方々に学校の取組が見えるような場所の設置、最後、高校と地域及び地域外の企業、小中学校、大学等との連携の促進ということでまとめさせていただいております。

（4）新しい学科については、前回説明のとおりとなります。①6次産業化をキーワードとして、農業、商業との連携が幅広く考えられること、それから②これまで南部地区にない新たな学科となることで、子どもたちにとって、学校選択の幅が広がること、③学校全体として、再編が目指す「地域ブランドの確立を通じた地域振興への貢献」に沿うこと、このようなことにより、新学科をデザイン系学科ということで、前回示させていただいております。

12ページ、こちらが魅力ある新たな職業教育拠点校のイメージ図ということになります。全体的なコンセプトとして図の上部にあります。学校全体での『地域ブランドの確立』を通じた地域振興への貢献を目指すということで掲げさせております。資料中程に3学科連携のイメージということになりますが、農業系学科、それからデザイン系学科、商業系学科というところで、それぞれの学科の主なものということになりますが、学習内容を入れ込んであります。農業系学科で見ますと、農産物の生産・加工、農業経営、地場産農産物の開発等、主なものということで他にもいろいろあるのですが、それからデザイン系学科でいうと、宣伝広告用の印刷物デザイン及びWebデザイン、それから商品企画開発、

パッケージデザイン、デザインの学びを生かした地域づくり等、商業系学科については、マーケティング、ビジネス経済、会計、それからオリジナル商品の開発・販売・普及、インターネットを活用した広報活動、電子商取引等というところで記載しております。3学科の連携の例示イメージになりますが、図の矢印のところになりますが、農業系学科において、生産・加工したものを、商業系学科で流通・販売になるのですが、その間をつなぐものとしてデザイン系学科になりますが、商品化に向けた総合的デザインというかたちで、最終的には売れるものをつくるという一連のつながりの中で、一連のサイクルの中で、一体的、循環的に学びを構築していくということを想定しています。また、この図の3学科にかかっていますが、これまで皆さまからいろいろご意見をいただきました、地域の学びということで、地域の歴史や伝統文化の学び、それから、情報の学びということもご意見をいただいたと思いますが、ICTの徹底した活用というところで、3学科に共通するものとして表示しているところです。

地域連携ということに関しましては、資料下の部分になりますが、地域連携機関について、学校・自治体・商工会等というところで記載させていただいております。

13ページ、14ページにつきましては、各学科の概要ということで、農業系学科、商業系学科、それからデザイン系学科について、記載をしているところです。13ページの農業系学科及び商業系学科につきましては、既存のものを中心に記載をしているところです。14ページにはデザイン系学科を記載しておりますが、こちらは前回お示ししておりますが、学習内容というところで宣伝広告等印刷物に関するグラフィックデザイン及びWebデザイン、それから商品企画開発や商品化に向けた企画デザインなど、付加価値の高い商品・作品づくり、3つ目にデザインの学びを生かした地域づくりというところで入れております。目指す資格検定、想定されるものがこちらに記載のものになります。それから、卒業後の進路ということで載せておりますが、進学、就職それぞれということになりますが、国公立及び私立の大学のデザイン系学科、専門学校。それから、就職では広告・出版・印刷関連企業、一般企業、自治体ということで想定しております。

デザイン系学科につきましては、新しい学科というところで参考資料として別紙準備しておりましたが、こちらは他県の事例ということで、3校ほど載せております。栃木県の足利工業高校、こちらは産業デザイン科という学科の名称になっておりますけれども、1～2年次で基礎を学習し、3年次に課題研究も含めて学習しているということで、課題研究のところを見ていただきたいのですが、例の1になります。足利市の観光活性化のためのデザイン支援、またストップモーションアニメーション制作など、それから地域連携というところで、チャレンジショップ事業ということで学校で取組んでいるという事例になります。それから、その下の東京都の六郷工科高校になりますが、学科の名称としてデザイン工学科という名称で、1～3年次の学習内容は記載のとおりです。こちらについては、高大連携ということで、大学との連携に取り組んでいるという状況です。続いて裏面になりますが、兵庫県立龍野北高校ということで、こちらは総合デザイン科という名称になって



おります。1～2年次で基礎を学び、3年次では課題研究、地域連携ということで、「町ぢゅう美術館」ということで、高校で制作した作品発表の場として、記載のとおり城下町全体を美術館に見立てて、様々に取組んでいるという町づくり事業の例がございます。以上参考資料ということで付けさせていただきました。

資料2の方に戻りますが、今までのところは本編ということになりますが、後ろに資料編があります。こちらをご覧いただきたいのですが、記載のとおり、新県立高校将来構想における県立高校再編計画について、各地区の中学校卒業生数の見通し、南部地区各高校の学科、系列、類型及び教育内容、それから両校の概要、最後に9ページをご覧いただきたいのですが、こちらの検討会議の開催要綱を入れております。11ページには開催経過ということで資料編ということで構成しております。資料の説明は以上になります。

#### 【座長】(高橋教育長)

最後の新しい魅力ある学校づくりに向けた9ページ以降のところですが、資料2の新たな職業教育拠点校のあり方についてということで、少し詳しく説明をさせていただきました。これまで皆さまから、いただいた様々なご意見をこのようなかたちで、報告書にまとめたものでございます。新しい学科としては、11ページにあるようなデザイン系学科、全体のイメージとして12ページのような絵に示したようなイメージということでございます。参考資料にデザイン系学科の事例ということで他県の状況がありますが、このいずれにも一致しない、一部は入りますけれどもそれぞれの特色を生かしながら、この新しい学校ならではのデザイン系学科をつくっていくというようなイメージでございます。

ここまでの事務局からの説明でございましたが、この資料についてご質問、ご意見があればお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。町長さんからはブランド学科をというお話もこれまでの会議で頂戴していたところですが、最終的に事務局としてはこのようなイメージでということでございます。よろしければお願いします。

#### 【大河原町 伊勢敏町長】

よくこれまでまとめていただいたと思って感謝申し上げます。12ページに学校全体で地域ブランドの確立を通じた地域振興への貢献を目指すというところがはっきりと書かれていますので、私の言わんとしたところは、学校全体でブランドを意識して取組んでいただきたいということで、ブランド学科という表現をしましたが、学校全体が地域ブランドを目指すものだとことを確認していただいておりますので、これで十分だと思っておりますし、また当然、新しい学校の綱領的な文書もつくるところなのですが、学校の基本的な方針としてこのような表現を入れていただければ、私の考えていることが体現されておりますので、ありがたいと思っております。以上です。

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございます。さらに、ご質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

**（大河原商業高校 佐藤校長挙手）**

**【座 長】（高橋教育長）**

佐藤先生。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

12ページ、今お話が出ましたけれどもデザイン系学科、ここに書いてあるのは商業の内容ですが、下の方に地域の歴史や伝統文化を学び、それからICTの徹底した活用が3つの学科に共通するものとありますが、地域の歴史や伝統文化の学びというのは、私はこの3つの学科に共通するものという関連性が漠然としていると思います。この資料の中にも、語学だとか情報だとかそのようなものを3つの学科に共通したのものとして学べるようにということなので、私はICTの徹底した活用というのが入っているから、これはいいと思うのですが、あと語学を3つの学科で共通して学ぶということも必要ではないかと思いました。

**【座 長】（高橋教育長）**

では、その点事務局からお願いします。語学についてということ、そのようなことも必要ではないかというご意見ですが。

**【事務局】（伊藤教育企画室長）**

今回の新しい学校で、地域に根ざした学校づくりを基本コンセプトに、これまで検討を重ねてきたところでございますが、地域で活躍すると同時に、国際社会においても活躍していただく人材育成も重要であるというご指摘かと思えます。そのいただいたご意見のなかで語学の重視については、確かにこれまでもいただいておりますので、3学科共通の部分で付け加えることができないか、さらに検討してみたいと思えます。

**【座 長】（高橋教育長）**

そのようなことで、検討させていただくということでございます。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

もう1つよろしいでしょうか。それでは14ページのデザイン系学科の資格・検定ですが、グラフィックデザイン検定からずっと並んでおりますが、この検定試験の内容は工業の資格・検定です。私はこのデザイン系学科というのは工業科としてのデザイン学科なの

か、商業科としてのデザイン系学科なのか、学習内容からすれば商業科としてのデザイン系学科という位置付けでなければならないと思います。今日も教科書を持ってきましたが、商業科の中にデザインという教科書はありません。ありませんが、電子商取引とか、商品開発とか、広告と販売促進という教科書があってこの中で、デザインについての勉強をするようになっているのです。ただ、これだけでは細切れになって、学習効率や学習の深まりがないので、新たにデザイン学科をつくってやればいいかなと思うのです。ですから、ここの資格・検定は、工業の資格・検定ではなくて、商業の検定試験とか、一般の資格・検定とかにさせていただければと思います。位置付けとしては商業科としてのデザイン学科という位置付けでお願いしたいと思います。

**【座 長】（高橋教育長）**

このデザインの学科の位置付けですね。大学科商業なのか、大学科工業なのか、あるいは大学科美術なのか、考え方はいろいろあると思うのですが、現時点で事務局としてはどのように考えているか。お願いします。

**【事務局】（伊藤教育企画室長）**

少し専門的な話になるのですが、県立高校の学科の組み立てとして、何の科目を機軸に据えて学科を構成するかということで、このデザイン系という学科についても、1つは美術を専門的に学ぶような、美術系の学校であったり、あるいは今、佐藤校長先生からお話があった商業に立脚したパッケージデザイン的なものを学ぶようなものであったり、あるいはお話のあった工業系ということですね、ものづくり産業に結びつくようないわゆる工業デザイン的なものも学ぶような学科というようなものも、つくり方としてはいろいろな考え方があるということでございます。現時点で事務局としては、14ページに記載のとおり、工業に立脚したようなかたちでの学科の成り立ちを考えてございます。その意図は、全県的な学科の配置の観点でありますとか、あるいは地域のニーズ、そしてこれから卒業後の進路を踏まえた学習内容等々も含めて、今のところは工業を考えてございます。また、さらに学習内容、カリキュラムを今後、実務者レベルの中で検討していくこととしておりますが、その中で具体的にさらに検討を深めていきたいと思っております。

**【座 長】（高橋教育長）**

今日の会議では、12ページにあるような大掴みの学校のイメージとして、農業系、商業系、そしてデザイン系ということをつくり込んでいきたいということでございます。

現時点では、このデザイン系というのは工業の学科の中の位置付けでということですが、具体的に詰めていく中で、指導陣の問題もございます。どのような指導者を充てられるのか、指導者の数はどうなるのか、あと実習助手であるとか、様々なハード整備であるとか、そのようなことがあります。具体的に教育内容を固めていく中で、生徒達にとって幅広く、

いろいろな角度から、デザインを勉強できるようにしていく、そうしたときにどの大学科がよいのかということで、今の時点では、事務局から話をしたような段階ではありますが、さらに専門の皆さんで今のような観点から、大学科をどこに入れるかということについては、さらに検討をしていくことになると考えております。ということでよろしいでしょうか。

**【大河原商業高校 相原正幸PTA会長】**

話の流れから聞いていくと、事務局の方ではデザイン系学科の考え方が、工業系だということが変わらないような感じに私は捉えてしまったのですが、今回、商業系学科と農業系学科を融合してというかたちなのですが、あえて仙南地区に工業系学科を入れるという意味合いがあるのですか。今回、ずっとこのような話し合いをもってきた中で、どんどん煮詰めてきたのですが、最後の最後になって方向性がブレてきたのかなという感じがするのですが、検討します検討しますということですけども、後になって話がまるっきり別な方向に動いているので、おかしいと思うのですが、その部分を確認したいのですが。

**【座長】（高橋教育長）**

事務局からお願いします。

**【事務局】（伊藤教育企画室長）**

今回、これまでの検討の中で、農業と商業をつなぐ新たな学科として何がふさわしいかということで、地域の皆さまから、様々な観点からご意見をいただきました。その中で、6次産業化というものをキーワードとして、デザイン系のものがないのではないかとお考えをいただきまして、前回中間まとめということで出させていただいたところがございます。デザイン系というものを実現させる方法として、カリキュラムの立て方として、いろいろな考え方がありますということです。1つは美術系に立脚するものもありますし、商業に立脚するものもありますし、工業に立脚するものもある。学ぶ内容としてはデザインを中心にそれぞれ、美術を極める方向とものづくりに貢献する方向といろいろとあるということです。そのような中で、事務局としては今のところ、デザイン系学科を立ち上げたときに、地域の子どもたちが就職なり、出口の部分で幅広くなることが可能とあるような学科として、あるいは学校のつくりとして教職員の確保の部分も含めて、たてやすい学校というところでの選択肢として、今、工業に立脚したデザイン系というものを考えているというところがございます。

**【大河原商業高校 相原正幸PTA会長】**

仙南地区に工業系が、白石工業というものがあるのですが、工業系に特化したものが増えるという意味合いでとっていいのですかね。

**【座 長】（高橋教育長）**

では少し私からも説明させていただきます。参考資料を今回お示ししておりますが、足利と東京の都立、それから兵庫県の3つがあります。一番分かりやすいのが、兵庫県の龍野北高校を見ていただくと分かるかと思うのですが、1年で学ぶものが、芸術、工業の基礎、製図、それから2年生になるとパネル製作、皮革、CG、映像、それから製図の基礎などあります。3年生になるとそれをユニバーサルデザイン、インテリアデザインであるとか、このようなかたちで自分でデザインをつくっていく、そのようなものを勉強するようになっているのですね。それを勉強させていくとなると、工業の科目の中にそのようなものが多いと現時点では考えているということでございます。ですから、工業の専門家をつくるということではなくて、デザインを、農業で作り、商業で流通も含めて販売をする、売れるものをつくっていく、それをつなぐときに、デザインという大きな要素がある。それは農業から商業だけではなくて、工業からという場合もある。いろいろなところから、入ってきて、それをさらに付加価値を高めるために、デザインをしていくときに、どの角度からデザインを勉強していくことが、生徒にとって一番いいのかという考え方で、先程申し上げましたように、教える人が幅広く必要になってきます。その幅広い人を得るためには、商業のデザインがいいのか、美術のデザインがいいのか、工業のデザインがいいのかということ考えていく。今の段階では、工業の方が幅広くいろいろなところから人材を得られるのではないかという判断を今のところしている。そのようなことでございます。ですから、新しく工業の学校をここに作るということではなくて、あくまでも、農業と商業をベースにしなが、それをつないでいくという意味でのデザインを入れる。入れたデザインは、すべて商業につながるということではなくて、商業ではない場合もでてくるだろうというものですから、そのような角度からも勉強ができるようなデザイン系の学科にしていく必要があるという考え方でございます。

**【大河原商業高校 相原正幸PTA会長】**

今、説明していただいた中身でだいたい内容はそうなのかなという感じはしてきたのですが、Q&Aの回答の中で、これは工業系学科ですというかたちで、強く言われたものですから、今回5回目の話し合いなのですが、その中で出された意見が全然反映されなくて、一方的にシナリオがつくられていたところに、我々がこのような会議体で、ただ話し合いの場に混ぜられているだけなのかなというニュアンスで少しとってしまったものですから、柔軟に考えていただけるというのであれば、理解はします。

（大河原町 伊勢敏町長挙手）

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございます。町長さんお願いします。

### 【大河原町 伊勢敏町長】

少し的を射てない話をするかと思いますが、日本の経済が今低迷、下降気味なのは、私はものづくりが衰退しているからだと思っています。そのような意味で、同じデザインをするのであれば、工業系、ものづくりに関連するようなデザインの能力がある人を育成すべきである。これは原則論でありますけれども、そのようなことを考えていただければ私はありがたいと思います。あと英語を重視したような教育ということがありますけれども、英語も重視しながら基本的な学科の勉強時間を減らさなければなりませんので、その辺のバランスを考えて、産業人育成ということであれば、その辺の度合いもしっかりと考えていただいて、英語については任意で選択ができるとか、そのようなことで共通して必ず英語はしっかりとしなければならぬという学校であってはならないと私は思っているので、このような感想を述べさせていただきます。

### 【座 長】(高橋教育長)

ありがとうございます。

さらにいかがでしょうか。今、英語の話がでましたが、菊池校長先生、どのようにすれば共通してみんな使える英語が上達するようになるか、新しい学校へのアドバイスをお願いします。

### 【大河原中学校 菊池均校長】

大河原中学校の菊池です。私は専門が英語ということで、先程、語学を職業教育拠点校でどのように位置付けることができるかというご意見が出て、確かにこれは国際社会、グローバルな国際交流など、そのようなところを進めていく上で、当然国際語と言われる英語、語学というのは非常に大事だと思います。国際コミュニケーションということも言われておりますので、基本、職業系高校で学ぶ語学、それから大学進学に特化したような進学校で学ぶ語学、言葉ですので行き着くところは同じなのですが、語学を導入する際に、職業系高校にマッチした経済用語とか、マーケティングというところで、子どもたちが日頃、専門的なことを学ぶときに、常に接するような表現とか、英単語などを重点的に教えていただければ、子どもたちも興味関心を増していくのかなと思います。それから資格試験の中に、英検とか、TOFELとかそのようなものがありますが、その中で総合力、コミュニケーション云々というよりも、流通英語とか、産業英語とかそのような部分の、正確な名前は忘れてしまったのですが、そのようなものも確実にあるのは確かですので、そのようなものも高校生に挑戦させていただきながら進めていただければ、子どもたちも意欲を持ってやれるのではないかと思います。そんな感想を持ちました。

別な意見もよろしいでしょうか。語学ではなくて、今お聞きしてデザイン系学科ですが、デザインというと本当に幅の広いものなのですが、私は中学校の教員なものですから、中学生の意識、目、感覚で言うと、デザインがどのような勉強なのかをイメージできるよう

な、そのような中身というものを期待したいなと思いますし、商業と農業を結ぶとか、これから10年後、20年後の経済の状況とか、社会の構造が大きく変化するなかで、今、ロボット化、人口知能とか言いますが、そのようなものが確実に10年後、20年後に出てきて、産業そのものを見直さなければならない状況がある程度想定したときに、今ではなく先を見通して、デザインであればCADなど、どんなものが必要であるか、先程聞いていて耳障りがよかったのが、クリエイティブデザインですね、クリエイティブ、創造的なというようなものが、この計画の中に入れ込まれると、一層魅力ある学科になるのではないかと思いました。まとまりのない話ですが以上です。

**【座長】(高橋教育長)**

ありがとうございました。コミュニケーションの道具としての英語力の育成の部分が大それたということ、お話を頂戴いたしました。それから創造性を身に付けさせていくようなデザインの学科であってほしいということ、それからデザイン科といったときに、中学生がどのような学習なのかが見えるように、そのような提示の仕方ですね、そのことも大それたということでご意見を頂戴しました。ありがとうございました。

今の新しい学校に期待すること等のご意見を頂戴しました。

**(大河原商業高校 佐藤校長挙手)**

**【座長】(高橋教育長)**

それでは佐藤先生。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

私先程、デザイン学科の位置付けについて、商業としての学科であるべきだと申し上げた根拠は、農業高校と商業高校の統合ということでスタートして、そしてお互いの強みを生かした形で再度教育内容を見直そうとか、新しい学科もそういう関係でつくってほしいと皆さんで議論してきたと思います。その中で、例えば、柴田農林高校の農場で作った野菜や果物をそのまま作るだけではだめなので、やはり売る努力をしなければならない。その時やはり、パッケージデザインをはじめ、いろいろなデザインをしないと流通経路に乗せられないだろうと、さらに言えば商業高校では今、電子商取引をやることになっていますが、電子商取引で全国にさらに販売する方法も考えなければいけない。新しい学校では、商業教育もそういう方向に見直さなければならないし、農業教育もそういう風に商業教育も取り入れた形にしていかなければならない。その中で、デザイン学科となれば、商業も農業もお互いの強みを発揮できる。今まで商業もデザインの部分は、教科書にはありますがなかなか取り扱い実数が少なくて、十分できなかった。確か柴田農林高校も造園計画ということでデザインの勉強はされていると思いますが、十分ではなかったかと思っています。

今回、まず農業と商業の強みを生かす形でのデザイン学科というのが、良いのではないかとということもありました。そして、その基盤となるのは、やはり商業だと思います。商業を基盤として、デザインを考えて、その時の材料として、例えば農場で作ったモノを生徒たちが実際にデザインしていく。工業科のデザインとなると、工業製品を作るということで、お互いの相乗効果が高まらないと思う。そういう意味からも私は商業科としてのデザイン学科にすべきではないかと思っています。それから今申し上げましたが、電子商取引でもデザインをふんだんに勉強しなければならないことになっています。電子商取引というのは、注文から販売、代金の決済まで一連の流れがあるわけです。その決済の流れについてコンピューター上でつくとすると、それは工業の先生では無理とは言いませんが、商業の知識を持った商業の教員でないと全部つくことはできません。工業の先生は、モノをつくる技術は持っているかもしれないけれど、電子商取引全体をきちんと教えるには、代金決済までやって初めて電子商取引が成り立つのです。今度、Yahoo!と連携して電子商取引、ネットビジネスを行なった北海道の高校に視察に行き、電子商取引を実施する準備に入る予定ですが、今後、電子商取引をやるときに、私はこのデザイン学科がいいのかなと、さらに情報も入れた「情報デザイン学科」がいいと思っています。これは、他の学科では無理です。そういうことを考えれば、商品の知識も含めたデザイン学科がいいと思う。工業デザインはいらぬといっているわけではないです。工業デザインも必要であれば、選択科目で入れてもいいと、ただ基盤となるのは、商業としてのデザイン学科でなければならないというのが考えです。そうしていかないと、新たに工業の学科ができて、製図やCADをやるとなると、新しい学校の位置付けがぼやけてしまうような気がします。以上でございます。

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございます。

事務局からお願いします。

**【事務局】（伊藤教育企画室長）**

ご指摘いただいたとおり、考え方としてももちろん商業ベースのデザイン系学科がありますし、この3学科の連携のイメージからすると、商業の内容の方がいいのではないかと話かと思えます。実は、商業系学科に立脚した形でのデザインというものも事務局で考えましたが、この商業系学科とは別に、商業系のデザイン系学科をもう1つ立てると、いわゆる農業と商業の2学科の状態ではないかということになってしまいます。商業系のデザイン系学科は、商業系の学科の中で完結してしまうので、なかなか難しいところです。それと、今回再編統合を通じて、6次産業化といったものも含めて振興したいというのと、仙南地域で特に強みのある機械系の製造業への貢献というものも可能性としてできてくるとより面白いなど、子どもたちにとって選択肢が広がるのかなということ、



今回3学科という提案をさせていただいているところでございます。

**(大河原商業高校 相原正幸PTA会長挙手)**

**【座長】(高橋教育長)**

相原さんどうぞ。

**【大河原商業高校 相原正幸PTA会長】**

最後に、子どもたちのニーズを調査していかなければいけないと思います。前回、子どもたちのニーズの調査状況を聞いたところ、調査していないとのことでしたが、そういったことを含めてつくる側が主体ではなくて、子どもたちが何を望んでいるのかということから求めていかなければならないなと思いますので、ぜひ先程言った工業系のデザイン科なのか、商業系のデザイン科なのかという選択肢のアンケート実施を。教育長さんの話だと、幅広い検討材料の中の1つだということですが、事務局の方では、思いっきり工業系を押ししているような感じで、こちらの方のニーズ・想いが何を言っても全然伝わらないようなイメージに取れます。先程から、何を言ったって工業系だと。教育長さんの話だといろんな選択肢がありますと、学年毎によって選ぶこともありますと。ただ、基本の工業系学科というものは全然変わっていかないのかなと。今回、もともと商業高校と農業高校が合併するのに、3学科にする意味が分からないような感じがするのですけれども。私は専門家ではないので詳しくはありませんが、せっかく仙南地区の方に白石工業もありますので、そこを踏まえて工業系学科の方は充実していただければと思っています。子どもたちがどういった形で受け止めていけるのか、混乱するような感じがします。アンケートによるニーズ調査の方は強く求めます。以上でございます。

**【座長】(高橋教育長)**

はい、ありがとうございます。

先程、菊池先生から中学生にとって分かりやすいというお話がありました。アンケートを取るにしても、こういった学科をつくらうと思いますけどどうですかということで、学科を明確にしていく必要があります。その時に、商業系のデザイン学科がいいですか、工業系のデザイン学科がいいですかと言っても、中学生自身は、おそらく理解できないと思います。そういった意味で、我々が目指すデザインの学科はこういうものと、それは、大きな学科として商業であろうが、工業であろうが、中学生にとっては、あまり大きな話ではありません。そのデザイン学科の中で何が勉強できるのかが大事なのであって、工業系の学科をつくるのが良いとか悪いとか、そういう話ではないということをぜひご理解いただきたいと思います。

それから、今回の再編統合については、農業高校と商業高校を合わせて1つにして、農

業と商業の内容を充実させるだけではありません。最初のときにお話したと思いますが、この地区に新しい職業系の拠点校をつくるときに、農業と商業のこれまでの歴史と伝統をベースにして、この地区で魅力のある産業の人材を育成する拠点校をつくりましょうと。その時に、まず商業と農業をしっかり残していき、さらに魅力のある何か1つ作ろうと思いますということでもとまってきたのが「デザイン」ということです。そのデザインが、工業系の学科に入れる方が生徒にとって有利なのか、商業系でやった方が有利なのかということで今、事務局で考えているところです。事務局では、工業系でやった方が有利だろうと考えています。その理由は、先程少しお話したように、商業系のデザイン学科にする大きな学科としては、「商業」ですので、商業の学科の中で1つの類型なりコースでやったらいいのではないかという意見が当然出てきます。そうした時に、農業高校と商業高校が合わさって商業系の色彩の強い学校になりますというふうに受け取るわけです。それが、生徒にとって、あるいは、地域の新しい職業系の学校としてベターかということを考えなければならないし、そうであれば、商業系のデザインも力を入れてやる学校なのだというふうに中学生にアナウンスするのか、新しいデザイン系の魅力のある学科を1つ作り出すということで、デザインの内容はこうですと示せるのか、そこによって受け取り方も変わると思います。我々にとって必要なのは、20年後30年後もしっかりここが職業系の拠点校として生き残ることが大事なのであって、その時に商業と農業の2つの学科で行くのか、商業と農業とあえてデザインという新しい学科をつかって、生き残りをかけるのか、その判断をしなければならないということでございます。

これまでの意見の中では、2つの学科だけではなく、もう1つ学科をつくることには皆さんから賛成をいただいたと理解をしています。それを大きく分類したときに、農業系になるのか商業系になるのか、工業系になるのかは、もう少し専門家である学校の先生にさらに入っていただいて、吟味をしていき、その中で具体的に中学生にこういう学科をつくりますがどういうふうに感じますかというアンケートをいずれ取りたいと思いますけれども、まだそこまではいかない、つまりこの会議の中でもイメージがまだまとまっていないところもありますので、そこはもう少し時間をいただきたいと思います。

(大河原町 伊勢敏町長挙手)

【座長】(高橋教育長)

はい、町長さん。

【大河原町 伊勢敏町長】

アンケートをやるということではあるのですが、私は、あまりアンケートには期待しないといいますが、子どもたちのニーズを聞くよりも、やはり職業人として育ていくわけですから、企業のニーズ、あるいはこれからの20年、30年を見据えた、今後ど

ういう産業人が必要かということを考えますと、やはりバランスを取った工業の学科もあってはいいのではないかと考えていますので、私は、このまとめで良いかと思えます。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい、ありがとうございます。

様々なご意見を頂戴してまいりました。時間も3時を過ぎましたので、本日が最後と言うことでもありますので、できればお一人お一人に新しい学校に期待することについてもご意見を頂戴できればと思っております。

この後は、お一人ずつコメントをいただく中で、さらにご質問あるいは、ご意見があれば加えていただくということでもよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、教育事務所の鈴木所長さんから時計回りをお願いしたいと思います。

**【大河原教育事務所 鈴木一史所長】**

まず、案をおまとめいただきましてありがとうございます。

今まで、いろいろ話し合いをしてきましたが、今日も今まで話をしたこととは違う部分の考え方も、先程の議論をお聞きして、そうなのかと改めて思ったところもありまして、まだまだこれから事務局で検討いただかなければならないところがあるのだなということを感じた次第です。とにかくどういう形になるにしても、今までの私たちの話し合いの中で大事にしてきたのは、やはり地域に根ざした学校をつくっていただきたいということでありまして、この地域の職業教育の新たな拠点校として新しい学校があるのだということのお話をいただいていますので、その辺りのことをなお重ねて検討いただきたいと思います。また、先程も大河原中学校の校長先生がおっしゃったように、子どもたちが、こういう学校なのだなど、特にデザイン学科については、私もデザイン学科と言われたときに、今までの話し合いの中で中学生にこういう学科ですよと、このメンバーでありながらまだはっきり言えないなという感じがあります。今日、いろいろ議論いただいた中でも、もっともっと深めていかないとだめなのだということを感じた次第ですので、今後とも、その辺の検討もいただきながら、何年か後にこの議論が生きて、この大河原地域に職業教育の良い拠点校ができたなというふうになっていただきたいということをご期待申し上げます。よろしく申し上げます。

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございました。

では、商工会の本木副会長さんお願いします。

**【大河原商工会 本木拓也副会長】**

商工会副会長の本木でございます。

私どもの商工会としまして、第1回目から2回目のときにお話させていただいたとおりですが、商業部会と工業部会、そして十数年前からできあがったサービス部会というものがあまして、全体的に3つに区分けしている形になってはいますが、今日の工業科的なものをどうするかという話の中で、いろいろ考え方があろうかと思いますが、商工会の3つの業種を見ていると、お互いに入り組んできていて、大きな垣根が最近見当たらないといえますか、要は、今後の私たちの社会がどういうふうに変化を遂げていくのかということで、むしろ学科の話をするというよりも、いろいろなトータルのものを考えられる子どもたちを育成していくということが新しい学校に求められるものではなかろうかと思っております。ですので、農業と商業が一緒になるということで、もちろん素晴らしいことですが、そこにはもちろん工業的な要素も絡んできますし、モノを売るために、そしてモノを育てて販売するために、技術的に何が必要なのかというところを皆で考えていかなければいけない社会になるということは間違いないことなので、私の意見としては、役に立つ人間を育てるような学校にさせていただきたいというお願いでございます。以上でございます。

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございました。

郡の父母教師会連合会の藤原会長さん、お願いいたします。

**【柴田郡父母教師会連合会 藤原義信会長】**

今回、最終回ということで、デザイン科という学校のパンフレットなどいろいろな方がデザインすると思いますが、その高校生を育てていくのですけれども、そのターゲットは中学生です。中学生が見たときに、どのようなインパクトを受けて、どのような目標を持って育つか、そのような子どもたちが今後の商業・農業に対して、学校に入ってしまうと違ふ視線が新たに芽生えてくるかと思っておりますので、今後の子どもたちに期待できるようなパンフレット等をいろいろな方面に広めてもらって、興味を持ってもらえるような学校にしてもらいたいです。以上です。

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございました。

では、菊池校長先生、改めてお願いします。

**【大河原中学校 菊池均校長】**

先程からお話を伺っていて、今話題になってはいますが、デザイン科の持っていき方として、商業系がいいのか、工業系がいいのかというような、いわゆる二者択一の議論は、私は基本的に成り立たないと思います。悪いことと言えばナンセンスに近いかなと私個人とし

ではそう思いました。理由は、デザインの学科を学ぶに当たって、先程、資格の問題が出ましたけれども、例えばグラフィックデザイン検定とか、トレース技能検定、こういったものをやはりデザインを学ぶに当たってのいわゆる基礎基本の部分といたしますか、学びというのが、習得と活用があるとすれば、今の部分については、習得の部分、基礎基本の部分であって、要するにそのスキルをどういうふうにして社会貢献に地域貢献に持っていくのかという部分が一番議論されなければならない部分だと思います。どう活用するか、どう貢献していくかという部分については、先程、大河原商業高校の佐藤校長先生が具体的にいろいろな事例を提示していただきましたが、そういったところも踏まえていただいて、デザインの習得の部分、そして活用の部分をどうするか、要はその活用部分で、今回何度も議論していただいた地域への貢献、地域との連携、そして子どもたちが、志を持って、進んでデザインを学ぶようなそういった子どもたちにさせていただければ大変ありがたいと思っております。以上でございます。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい、ありがとうございました。

では、伊勢町長さんお願いします。

**【大河原町 伊勢敏町長】**

今回の議論としては、職業教育の拠点校をつくるという観点でスタートしております。そのような観点で、全国に先駆けたような学校をつくりたいというお話も第1回目にいただいております。そのような関係からいきますと、農業、商業、工業が一体となったような学校をつくれればこれはもう全国に先駆けという観点もありますし、先程から繰り返しますとおり、企業のニーズもしっかり把握する中で、工業も少し重視してもらいたいということでもあります。それから私がいろいろな問題意識の中から、これまでブランド学科と言っておりましたけれども、これは基幹産業である農業、そしてものづくりである工業がしっかりと売れるものをつくらなければ何もならない。何回目かの議論のなかで申し上げましたけれども、ブランドは宣伝ではつukれないと、いくら宣伝しても、あるいはネーミングを良くしても、あるいはパッケージを良くしても中身が良くなければ売れるものではありません。その中身をどうするかということでブランド学科の発想で、地域の宝を生かせるような、そのような勉強をしてはどうかということで、そのような観点からブランド学科と言ったままでありまして、要はこれからの子どもたちが、就職する際になるべくいい就職ができるように、いろいろなことが勉強できる学校が1つあってもいいのではないかなというように観点を申し上げたいと思います。それから、本木副会長の話にもありましたけれども、しっかりした人材をつくってもらいたいということでもありますけれども、この観点で1つ申し上げますと国際人を養成するには、私は英語を勉強するよりも、日本文化を勉強しろということをお願いしたいです。そのような意味で、それとこの学科で勉強す

ることを中心に、勉強するということをしつかりとやりながら、この地域の文化なり、日本文化のようなものを身に付けるような、一度言ったことがあります、教養をしつかり、人間としての人間性を鍛える意味で、職業人をつくるという意味で、技術を習得することが基本中の基本であります、人間性を鍛えるという意味から、文化をもっともっとしつかり勉強するような人間をつくっていただきたい。私もいろいろ国際会議などに出ておりますけれども、英語なんかろくに話せなくても、民謡を歌った方がよほど拍手喝采を浴びるわけでありまして、そのようなことから日本文化は極めて大事だと、文化の勉強も地域の文化を勉強することも、しつかりとやっていただきたいと申し上げて終わりたいと思います。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい、ありがとうございます。

中学校卒業するまでには、さんさしぐれが歌えるようにしている大河原町の齋教育長さんをお願いします。

**【大河原町 齋一志教育長】**

はい、町長と全く同感でありまして、大河原町の中学生が卒業するときには、さんさしぐれが歌えるようになっております。さて、そもそも何の為にこの会議は発足したのかということですが、やはり生徒数が極端に少なくなってくるということで、どうしたらこの高校が生き残れるのか、先程高橋教育長もお話しになりましたが、どうやってその高校を生き残らせていくのか、20年後も30年後も生き残らせていくのか。そこが大きな観点ではないのかなど、そのために何をするのかということでも話し合っているわけですが、やはり専門性をどのようにこの学校で身に付けさせるのかということが非常に大事になってくるだろうということでもあります。そのような意味で、デザイン学科ですね、これは非常にユニークな学科で、農業と商業と合体したようなという話もありますけれども、この仙南地方では全くなかったデザイン系の学科を設置するという意義は非常に大きな意義があると思います。ただ、その方向性につきましては、私は専門家ではないのでよく分かりませんが、しかし生き残るためのデザインは何なのかという観点で、デザインを考える必要があるのではないかと。

前回ですね、私は生き残るために何が重要かということで申し上げたものは、少しづれますけれども、角田養護学校の分室が白石中学校にございます。つまり、県立学校と市立学校がひとつの学校に入って教育効果を上げているのです。県立学校の中に、国立の学校が入っている例はないのですが、しかしないからといって、それが不可能かというところではないと思うのですが、要するに何を言いたいかというと、高専ですね、名取高専の分室をその学校に持って来ることによって、より専門性を高められるのではないかと。これは、別物でございますので、全くゼロからのスタートということになるので、事務局は大変な

作業になってくると思うのですが、しかし、県内でも特別支援学校が公立の中学校の中にあるいは小学校の中にできていることもあります。では、国の施設と県の施設を1つに全くできないかという、やはりその努力はしてもいいのではないか。そして、高等教育を大河原の中で、大学はないのですが、福島の会津大学のイメージを持っているのですが、会津大学はコンピューターの専門の学科を持って世界に情報を発信しているのですが、やはりそのような、単なる専門性と口で何回言ってもそれは時間が経てば、自然に曖昧になってきます。しかしそれよりは、明確な高等専門学校というものをつくることによって、専門性は維持し、さらに向上すると私は考えます。本当に難しいことではあるのですが、しかし大河原町の町としての教育力を高めるためにも、やはりそのような高等教育を、ピンチをチャンスに変えるために、このようなものを持ってきていただければ、大変ありがたいと思っております。高橋教育長よろしく申し上げます。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい、ありがとうございました。

では、金ヶ瀬中学校の品川校長先生申し上げます。

**【金ヶ瀬中学校 品川信一校長】**

よろしくお願ひいたします。地域のニーズを踏まえた魅力ある高校ということで、これまで話を重ねてきまして、12ページのような提示がありまして、非常に分かりやすいなと思ひました。生産し、加工し、それをデザインして、流通・販売、あるいは事務管理までつなげていって、社会のニーズを踏まえながら、それを生産に生かしていくということで、ただ農業系と商業系のつながりがデザイン学科であると考えたときに、商業系のデザインも学べるといいなと思ひた反面ですね、町長さんのお話にもありましたように、育成した人材をぜひ地域に定着させたいと、流出させたくない、そして仙南地域の強みとして機械関係の企業が非常に多いと、そこへのつながりという意味合いでのデザイン学科の設置を考えていきたい。理由としては、2030年問題等もありまして、今後職業がどのように変わっていくか分からない。そのようなときに、専門的に学んでより今後の人生に生かせるような選択肢という視点で見たときに、工業系のデザイン学科というのもひとつありなのかなと思ひます。あとは、中学校進路指導の観点で見たときに、非常に子どもたちに説明がしやすいと思ひました。生産から販売まで、一貫して学べるよと、場合によっては、工業系を専門的に学んで地域の企業に就職することも可能だよということで、ある程度将来を見通した進路指導が可能な学科を考えていただいているという点では非常にいいのかなと思ひます。以上です。

**【座 長】（高橋教育長）**

ありがとうございました。

柴田農林高校のPTA会長の我妻様お願いします。

**【柴田農林高校 我妻亨PTA会長】**

はい。今日はどうもありがとうございます。私個人としては、デザイン系学科は、今まで随分議論がありましたけれども、幅広すぎてなかなかイメージがつかなかったのですが、この農業と商業にデザインを取り入れたというのは、そこを強めるためのデザイン学科なのかというイメージだったのですね。ですから今日お話を聞きまして、自分のイメージとはまた少し違ったのかなと、どちらかという佐藤校長先生の意見に私は賛成です。ただ、これは子どもたちの人材育成についても、社会がどんどん変わっていく中で、やはりその変化にいかに対応できるようなそのような学校であってほしいなというように思うので、今までの常識が常識ではないような世の中になってきていますので、本当に柔軟性を持った学び舎というか、そのような学校にしていいただければ、今本当にワクワクした思いでおりますので、ぜひよろしくお願いします。ありがとうございました。

**【座長】(高橋教育長)**

ありがとうございます。

大河原商業高校のPTA会長の相原さんお願いします。

**【大河原商業高校 相原正幸PTA会長】**

はい。お疲れ様でございます。いいモノを作らなければ売れない。当然、いいモノを作ってもアナウンスなり、広告、広報なりができなければ、数多くの人に知ってもらえない。そのように知ってもらうための手段として、デザイン系学科が農業と商業から生まれた目玉になる学科というかたちで、今までお話し合いをずっと続けてきたと思っているのですが、そこで工業系ということで何か、工業系のイメージがちょっと私も素直に噛み砕いて入らないから、今日の議論にもなったのですが、最後、主役は子どもたちです。子どもたちが、望まないような学校をつくっても、だれもその学校に来ません。よく子どもの数が少なくなったから再編ということで、私の地域の方も小学校を再編しました。学校の老朽化なり、子どもが少ないと、結果的にどうかというと、後で失敗したり、後悔したり、わざわざ統合などしなければよかったと、実際に大河原商業高校の方の地区懇談会の意見の中にも統合がなぜ必要なのかという話も当然、どんどん出てくるのです。何でわざわざ統合しなければならぬのですか。そのような話の中で、統合して良かった、統合して子どもたちが、新たなモデルになるような学校ができて良かったという学科を構築していければと、その選択肢の中で工業系というのであれば、理解もできるのですが、最初から工業系が絶対だよというかたちではなく、選択肢の中でもんでいただければと思っています。

あとは拠点というときに、これは大河原地区にできるから大河原地区の拠点という意味



合いで取っていいのですかね。私は仙南地区の拠点という意味合いでとったのですが、仙南地区の拠点だから、白石工業さんがあるのに工業に敢えて手をかけるのかなというイメージなのですが、大河原の拠点というイメージなのですかね。仙南地区ということですよ。

**【座長】（高橋教育長）**

そこは仙南地区の拠点として、新しいタイプの専門学科、今農業と商業があるのですが、それを横断的に学べるようなことも含めて、仙南地区で新しい職業教育のモデルとなる拠点校をつくりたいということです。

**【大河原商業高校 相原正幸PTA会長】**

農業を学ぶところだったり、工業を学ぶところだったり、仙南地区ということであればあるのですが、商業というのは大河原商業しかありません。そのような意味では、今まで話し合いをしてきて、せっかくリーフレットなどを見ると素晴らしい内容かなと思っていたのですが、最後になってきてぶれてきたのかなと率直な感想でした。以上でございます。

**【座長】（高橋教育長）**

はい、ありがとうございました。

柴田農林高校の同窓会長の菅野様お願いします。

**【柴田農林高校 菅野信同窓会長】**

はい。今日5回目で実をいうと私、複雑です。この統廃合が嫌だという意味ではなくて、私自信は職業が教員だったもので、それも農業の教員で進んで、わが母校柴田農林が非常に長い。そして管理職で退職していますので、今、県教委と皆さま方のお話は素晴らしい、夢見ている話なのか私には分からないのですが、私の考えですが、5回の統合に関するあり方の会合で、統廃合しますよ。その提言が、今されたのだらうと、みなさんの意見を。それを県の事務局が分かりやすくつくっていただいた。これを全て具現化するとすると、まず不可能でしょうけれど、今から実務者レベルで、きちんとスリムな新しい時代へ向かって、学科が編成されてくるなという感じで、ここで小さなことでガタガタ言っても先へは進まない。要するに少子化であり、社会が大きく変わった。それからグローバル化した。いろいろな要素が絡み合っていて、このイメージが出てきていますので、今後は実務者レベルで、私は一番大切なのはスタッフだらうと、スタッフでものすごく変わる。これは実務者の問題のところに出てくるだらうと、素晴らしい発言が、提言がされても、実行されない、する、しないを見ているとどうもスタッフが大きな比重を持ちます。どうか農業系、商業系、デザイン系の新しい学科がスタートすることを期待しています。ありがとうございました。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい。ありがとうございました。

大河原商業の同窓会長の大沼様お願いします。

**【大河原商業高校 大沼俊臣同窓会長】**

どうも長い間、いろいろとありがとうございました。大商の校長先生の言うことも然りだと思えます。私も商売をさせていただいて、いろいろなパンフレットなりメニューなんかを悩んでつくっている立場上、売れるものを表現するというのは大切かなと思っております。今から6年後、統合して卒業するまで9年、卒業する頃にはもう金の卵が産まれる状況かなと私は思っております。企業が欲しいと言っても割り当てがないくらいの金の卵がそこから生まれてくるものですから、金の卵においしい、良い人間の魂を入れていただけたらありがたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい。ありがとうございました。

大河原商業の佐藤校長先生お願いします。

**【大河原商業高校 佐藤充幸校長】**

繰り返しになるかもしれませんが、今までの議論、会議で今日もまとめとして出ていますが、地域振興とか地域に貢献する人材といった場合ですね、まずぎっくばらんな言い方をすれば、飯が食えるようにならなければダメだと。飯が食えるようにしないで、地域振興とか地域に貢献すると言ったってできっこないんですよ。私は農業でやっているのであれば、農業である程度飯が食えないとダメだと思います。そのためには今の時代に必要な技術、科学技術も含めていろいろな技術を駆使してやらなければダメな時代になっているんです。ずっと前の会議でも言いましたが、インターネットを使って2、3人でグループを作っているいろいろな農産物を販売して、十分ではなくとも何とか飯を食っている農業青年がいるんですよ。あるいは海岸部に行けば、南三陸にもそういう漁業者がいます。数人でグループを作ってインターネットビジネスでやっている。それが復興の人材にもつながるんですね。私の考えの根底にあるのはそこなんです。それが職業教育、職業観の育成にもつながると思うんです。だから別に工業でも農業でも水産でもそれは必要ですが、何を基軸にしないではいけないかと言うと、工業を前面に出して新たに工業教育をやった場合、ノウハウがない中では危険とまでは言わないけれどもかなり時間がかかりますよ。白石工業で既にある工業高校で今度、デザイン系学科も作ってやりましょうと言えば工業の教員が総出でやれます。新たに作るよりは良いと思います。今度の商業と農業高校の統合校では、大河原商業の方が若干規模は大きいですが、商業を軸にしてやればノウハウはありますから、カルビーのポテトチップスや梅きりなど商品開発の実績はあるわけです。

それも地域振興になっていきますし、地域の人材を育てることにつながっています。今後統合することによって、商業の弱かった生産物を持たないという部分を農業高校の生徒が農場で作って、商業で学ぶ生徒がそういうのを売る、デザインするとかそういうことを考えています。既に実績があるわけだから、それを使えばいろいろなデザインが使えますよ。特に一番重視している電子商取引は今度の統合の目玉だと思っています。農業でも工業でも言えます。そういうのを目玉にしていかななくてはならないと思っています。工業でもWebデザインとかできます。だけどそれは周辺の知識がないとうまくいかないのです。先程も言ったように広告を作り、注文をし、受注した商品を発送し、代金決済をする。これは全部商業に関係することです。だから商業を基軸にしてやっていきたいと思います。ただ、工業の技術者向けの技術も必要なのではないかとしたら、CADとか工業の一部科目を選択科目として入れても良いのではないですかというのが私の考えです。ただ基軸、基盤は商業としてのデザイン学科でなければダメですよということです。そういうところがブレてしまうと、うまくいきませんから、ちゃんとした学校をつくりたいというのは私も皆さんと一緒にです。ですからそういう点で事務局の皆さんももっと検討してみてください。それから最後に1つ言いますが、商業のデザインであっても工業のデザインであっても同じだということはないです。そんなことを言ったら文部科学省の教科調査官から指導を受けます。私たちも普段指導を受けていますから。商業には商業のねらいがあって、商業科としてのデザインにはそのねらいがあって、工業科のデザインにもそのねらいがあって、それぞれねらいが違うんですよ。工業科のデザインは材料に特化したデザインを考えます。例えば鉄とか銅とか亜鉛とかのデザインはどうあるべきかというところに工業のデザインはあります。商業のデザインはまた違って、販売するために多くの人に支持されるためのデザインを考えていかなければならないのです。そういうねらいがあるので同じではないのです。そこをちゃんとやらないと後で文科省の教科調査官から指導を受けますのできちっとしていきたいと思えます。以上です。

**【座 長】（高橋教育長）**

はい。ありがとうございました。

柴田農林の後藤校長先生お願いします。

**【柴田農林高校 後藤武徳校長】**

この会議に出席するようになってから、10年後、20年後の職業はどのようになっていくかということを考えています。特に産業としての農業を考える場合は、世界中での日本農業を考えていかなければならない時期になっています。国の新たな施策も構造改革や諸外国との食糧需給のあり方が打ち出され、生産者（後継者）が個々に対応できるものではなくなりつつあります。今後、農業の企業化や法人化への移行が強く求められ、競争を勝ち抜いていかなければならないのが現状です。

その中、農業の専門高校として求められる人材育成は、少数であっても若手の経営感覚に溢れた人材を育成することとその経営者をサポートできる技術者や支援してくれる理解者の育成であると考えています。

また、新しい学校に期待するのは、6次産業化の推進や3学科が協業でおこなうものづくりです。各科の専門性を活かしつつ、ものを生み出すことは簡単ではないと思います。しかし、各科の生徒が意見を出し合い、試行錯誤して、ものをつくりだすことが職業教育拠点校の役割ではないでしょうか。

そのためにも、デザイン系の学科は、1学科にとどまらない、広く情報を収集して、新設校のトータルデザインを発信できるものであり、変化に柔軟に対応できるものであることが重要であると考えています。

従来の価値観だけでは対応できないグローバルな社会の中で、職業高校も学科が並立するだけでなく、専門性を活かしながら、時には一体的に、時には循環的に学びを共有することが、職業人としての資質を育むポイントであると考えています。そのためにも、極端に言えば、学科の垣根はないか、できるだけ低いほうがよいと考えています。

#### 【座長】(高橋教育長)

はい。ありがとうございました。今日、ご出席の皆さんからそれぞれ新しい学校にかけの期待をお話していただきました。ありがとうございます。この学校が50年後もこの大河原地区で仙南の職業教育の拠点校として輝き続ける学校でありたいと一番最初にお話ししたように記憶しております。一回建てる50年は間違いなく壊しませんので、これからは100年使うかもしれません。そういったところでも輝き続ける学校であるためには何が必要か、今日までいろいろなご意見を頂戴しました。ありがとうございました。全体として12ページのグランドデザインについては、ご了解いただいたとここで一回確認させていただきたいと思います。デザイン学科が工業に属するか、商業に属するか、ここは佐藤校長先生からもありました学科のねらいということもございます。併せて人材の配置ということもございます。そこも含めて。ただ我々が狙っているのは12ページに書いてあるような農業と商業をしっかりとつないでいく役割としてデザイン系学科、これを1つの柱として置くのだということ、ここは全員で共通いただける部分だと思いますので、あとは分類をどうするかということについては、今後の検討の中で決めさせていただくということでもよろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。それから今回の案に加えて、いろいろ期待の部分で頂戴した意見がございます。これも含めてこういった形で最終案、完成版にまとめていくかということについては、今日はおりませんが座長に一任させていただくということでご了解いただきたいと思います、よろしいでしょうか。

(「お願いします」の声)

**【座 長】（高橋教育長）**

はい、ありがとうございました。

では今後、できるだけ早くこの検討会議からの報告書、提案をまとめる作業に入りたいと思います。大変熱心にご議論をいただきありがとうございました。事務局に進行を返します。

**【司 会】**

本日も限られたお時間の中で様々なご意見を頂戴しました。大変ありがとうございました。なお、本日をもちまして全5回にわたって開催いたしました大河原地域における高校のあり方検討会議は終了となります。報告書につきましては先程申し上げましたとおり出来上がり次第、皆さまのお手元にお届けしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは会議終了にあたりまして、改めて高橋教育長より御礼申し上げます。

**【高橋教育長】**

改めまして、本日も熱心にご意見を出していただき、ご議論いただきましてありがとうございました。冒頭にも申し上げましたが、この大河原地区での新しい学校の再編統合にかかる検討会議というものは県内で初めて開催しました。今年スタートして上半期でまとまるかどうか実は心配もしたところですが、お陰様でこのような形でまとめることができました。新しい学校のイメージがこれでほぼ固まったということですので、今後具体化に向けて、これは先程、菅野先生からもありましたが、実は難しい仕事でありまして、頂戴した報告書全てを具現化できるかどうかかなり難しいところではありますが、我々としては頂戴した地域の期待を新しい高校という形で具体的に示すことが、皆さまにご意見を頂戴したことに報いることになると思いますので、皆さまの期待にしっかりと応えられるように、そしてこの地域の中学生がぜひ入ってみたいという高校になるように全力で今後取り組んでまいります。地域の歴史と文化これを生かしてその中心に農業があるわけで、それをさらに振興して地域の様々な文化・歴史これを生かした学校づくりを全国そして世界に発信してどんどん売り出していく、それが良いものを作ることによって大河原のブランド力が上がると考えております。これも5回の議論の中で頂戴した貴重なご意見、提言でございます。これをしっかり心に留めて、それが具体化できる学校づくりを目指してまいりますので、今後ともいろいろ機会を捉えてご意見を頂戴できればと思っております。今回の報告書が出来上がり次第、お知らせ申し上げますけれども、これからも機会を捉えて情報提供させていただきますので、よろしくお願いいたします。

これまでの皆さまのご尽力に感謝申し上げます、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。これまで本当にありがとうございました。

**【司 会】**

以上をもちまして、第5回大河原地域における高校のあり方検討会議の一切を終了させていただきます。皆さま、どうもありがとうございました。